

## ふくしまを十七字で奏でよう ふるさと部門で優秀賞を受賞

子どもたちの豊かな心を育むことを目的とした「ふくしまを十七字で奏でよう 絆ふれあい支援事業」が開催され、鈴木陸斗さん（県北中1年）の「釣り竿の先に広がる 青い海」、恵子さん（母）の「幾千の涙の先に 子の笑顔」がふるさと部門で優秀賞を受賞。県北教育事務所の川井孝寿所長から表彰状が伝達されました。陸斗さんは「受賞を聞いてとても驚きました。母と一緒に作った作品が受賞できてとても嬉しい」と話しました。



表彰状を手にする鈴木陸斗さん（右から2人目）



練習の成果を披露する教室生たち

## 練習の成果を披露 若い芽のコンサート

国見古典鑑賞会（高橋幸子代表）主催の若い芽のコンサートが1月29日、観月台文化センターで開催されました。コンサートでは、和楽器体験教室に通う小学生から大学生までの生徒たちと、指導ボランティアさんが日頃の練習の成果として、箏や三味線で数々の名曲を奏でました。訪れた保護者などが、教室生たちによる和楽器の雅な音色に聞き入っていました。

## がんばる子どもたちを応援 国見町青少年育成町民会議奨励金交付

東 北大会や県大会に出場した生徒に奨励金を交付しました。

### 〇ソフトテニス競技

【第54回東北高等学校インドアソフトテニス大会】

鈴木拓磨（高2）

### 〇硬式テニス競技

【第42回福島県春季選抜ジュニアシングルステニス選手権大会】

齋藤蓮斗（高1）



奨励金を受け取った齋藤蓮斗さん



豆まきをする児童たち（藤田保育所）

## 大きな声で「鬼は外、福は内」 藤田保育所とくにみ幼稚園で豆まき

藤田保育所とくにみ幼稚園では、2月3日の節分に豆まきを行いました。子どもたちは手づくりの鬼のお面や帽子をかぶり、「鬼は外、福は内」と元気いっぱいに豆をまき、「泣き虫鬼」や「怒りんぼう鬼」などの悪い鬼たちを心の中から追い出しました。保育所では、鬼のパネルが登場すると、はじめは怖がる子どもたちもいましたが、友達と力を合わせて鬼を退治すると、ほっとした表情や笑顔を見せていました。

## ひなまつり気分を満喫 くにみももたん広場ひな祭り

くにみももたん広場では2月16日から3月3日までの間、季節のイベントとしてひな祭りが行われました。

桃の節句を楽しんでもらおうと、パネルや衣装などスタッフ手作りの撮影ブースを設置。訪れた子どもたちが「内裏びな」に扮して写真撮影をするなど、ひな祭り気分を楽しんでいる様子が見られました。



衣装に着替え笑顔で写真撮影



親子で協力してみそを混ぜ合わせました

## 伝統発酵食品「みそ」の魅力親子で学ぶ 親子みそ作り体験教室

親子みそ作り体験教室が2月4日、観月台文化センターで開催され、12組の親子が参加しました。

福島市でみそを製造する有限会社丸滝の堀切知之さんを講師に迎え、全て国見産の材料を使用したみそ作りに挑戦。親子で袋に入った大豆をつぶし、塩とこうじを加え、しっかりと混ぜ合わせました。作ったみそは発酵を促すため週に1回程度手をかけ、約半年ほど育てて出来上がります。

## 仲間たちとの思い出を胸に 国見ソフトボールスポ少卒団式

国見ソフトボールスポーツ少年団（菊地洋孝団長）の卒団式が2月26日、森江野町民センターで行われました。

卒団式では、3月で小学校を卒業する6年生の団員6人に菊地団長から卒団証書と記念品が手渡されました。監督の村上忍さんからは、卒団者一人ひとりに激励の言葉が送られるなど、団員たちは仲間たちとの思い出を振り返りながら、自身の確かな成長を実感していました。



“国見魂”は卒団生から後輩へ受け継がれます



引地町長に寄附を手渡す野村義悦さん（右）

## 交通遺児支援に役立てて 野村義悦さんが町に寄附

野村義悦さん（大町南）は2月7日、国見町役場を訪れ町に対して寄附をされました。

野村さんは、交通遺児育成に役立ててほしいとの目的で、平成24年から毎年献身的に町へ寄附されています。野村さんから寄附を受け取った引地真町長は「毎年の寄附に感謝いたします。交通遺児支援のため、有効活用させていただきます」と感謝の言葉を述べました。